

未来の京都像（全体的な方向づけ）

京都力の創生

＜魅力的で誇れるまち・京都＞

- ・「よかった、京都で暮らしていて」（日常性を重視する生活者の視点から考える京都）
- ・京都に暮らすことに誇りをもち、その誇りをさらに高めていくプロセスに参画してもらう。
- ・ナンバーワンよりオンリーワンを目指す。
- ・オリジナル施策群を案出・決定・運用するスタイルの重視、自主的制度・ルールの可能性な仕組みへの準備（独自スタイルを実施できるのが京都の強み）

＜誇りある伝統の再創造＞

- ・京都が受け継いできた伝統を継承し守ることに加え、新たに次世代に引き継いでいく伝統を創造する。

＜世界に誇れるまち京都＞

- ・外から期待される京都の未来像イメージ（歴史都市、観光、世界遺産、古都、山紫水明など、将来もそんなに変わらない。京都市民はどう思っている？
- ・観光客、文化人から研究者、企業家まで多彩な層を魅惑する京都の強みを活かし、海外の人材を京都に呼び込む。

地域力の再生

＜人や場のつながり＞

- ・「モノの豊かさ」から「関係性（人とのつながり）の豊かさ」へ
- ・市民が、自身の成長と京都の成長を同時に感じられる都市へ（エンゲージメント（双方の成長に貢献しあう関係））
- ・多様な社会参加の「機会」と、様々な社会的「居場所」の保障
- ・「生活の自己責任論」の再考：「個人的なこと」から「社会的なこと」へ
- ・共汗の実質化（NPO や市民の政策提言能力の向上や実行力を向上）
- ・地域社会において実効性のある政策が地域住民の参加によって実行

＜生活の視点を重視＞

- ・生活者の視点＝「主体性」,「日常性」,「地域性」を大切にすること
- ・市民が安全で安心して暮らせる京都市へ

未来の京都像（分野別の方向づけ）

知 恵

＜文化力による新たな創造＞

- ・京都が世界からアートで注目を浴びる都市に
- ・現代アートはイノベーションのきっかけ（先端企業との連携や外貨獲得、観光客の誘致、時代の先端を行く人々が京都を訪問など）
- ・都市イメージにつながる文化資源（特にその知的資産の情報運用）の積極的な活用
- ・「映画の都」としての魅力を発信すべき。

＜交流＞

- ・目標観光客数 5000 万人の次（各分野との連携、単なる宿泊数重視ではなく）
- ・観光客の増大だけでなく、世界の頭脳が京都という場に集い世界に発信
- ・ハード・ソフト面での外国人受入体制整備（世界的な企業の研究所誘致）

環 境

＜魅力溢れる都市空間の創出＞

- ・魅力溢れる賑わいのある都市空間（市民、国民、世界の人々にとって、景観・街並み、歩行環境、アクセス性、安心・安全など）
- ・京都がより美しい街並みになることが、もっとも観光客の増加につながる。
⇒新基準町家街プロジェクトの提案（現代の住宅基準やニーズにあい伝統的町家とも調和する「新基準町家」が集まる「新基準町家街」（景観保全面、産業面、行政面、観光・国際交流、教育、文化、その他様々な面で効果））
- ・目標観光客数 5000 万人の次（各分野との連携、単なる宿泊者数重視でなく）
- ・人口縮小停滞期における都市構造・土地利用の誘導施策のモデル的实施（関連諸制度体系間の整合）

＜公共交通を軸とした環境にやさしい都市構造＞

- ・人口減少、超高齢化社会、持続可能、低炭素社会、コンパクトシティ、都市の魅力・賑わい・活力
- ・自動車依存からの脱却、環境にやさしい交通手段によるまちづくり
- ・実効性ある低炭素社会の実現に向けた取組や制度を提示

＜地球温暖化対策の重視＞

- ・地球温暖化対策を重視し、あらゆる施策の中へ組み入れる。（担保するための仕組みを）
- ・2013 年以降の次期削減目標を意識した高い目標設定を。
- ・市民参加の重視、ビジネスの機会に。
- ・民生部門（家庭・業務）と運輸部門での需要対策と新エネルギーの供給対策に重点を。

いのち

＜子育て、教育、福祉＞

- ・教育の基盤を支えるコミュニティの再生
- ・児童虐待、高齢者虐待、孤独死、自殺、不登校、引きこもり、貧困、ワーキングプアなど、様々な社会問題の背景にある「社会的孤立」の状況
- ・子育て支援、ひとり親家庭支援、子どもの遊び場、世代間交流、独居高齢者等の生活支援、住民のネットワーク構築、ボランティア活動の推進、不登校児童の支援、子どもの学校生活支援、在宅介護者支援、就労支援・・・
- ・他者への「想像力と共感力」を育むこと
- ・適度な「おせっかい」と「助けられ上手」を志向する関係（つながり）づくりとその共有・公、民協働によるセーフティネットの充実
- ・住民参加と公民のパートナーシップにより構築されていく社会福祉（地域福祉）へ
- ・「生きる場所」としての地域社会・地域空間の再構築
- ・本庁各部局でも「子ども」に焦点を絞った京都らしい（保全・再生・創造の）施策展開（「医療、保健、福祉、教育・・・」の連携）

ひ と

＜場のつながり、活用＞

- ・生活する人が京都にアイデンティティをもてるように＝参画者としての京都市民（「わたしの京都」という意識づくり）
- ・多様な社会参加の「機会」と、様々な社会的「居場所」の保障
- ・社会的なつながりと地域における「居場所」があること
- ・地域における様々な「居場所」づくりの活動の推進と住民の参加、協働
- ・「一人にしない」街づくり、地域づくり

未来の京都像の背景（京都市の現状）

- ・市内の芸術系大学は 1 0 校
- ・特徴的な文化芸術施設（京都芸術センター,「京都国際マンガミュージアム」）
- ・府内の産学共同研究数は、H16 年度は 503 件と全国 4 位

- ・入洛観光客数の増加（平成 1 9 年中に京都市を訪れた観光客数は、前年に比べ、 1 0 5 万 4 千人（2. 2 %）増の 4, 9 4 4 万 5 千人）
- ・活発な国際交流（留学生数が 4 千人台）

- ・全国をリードする新景観政策（広いエリアでダウンゾーニング）
- ・京町家まちづくり調査（平成 16 年 3 月）（都心の一定区域内を対象に 5992 件を調査。前回調査（平成 10 年）後、927 件の町家が除去）

- ・K E S（京都版環境管理認証制度）による中小企業の環境活動の増加
- ・公共交通利用率が微減（人口当たりの公共交通乗車人員が減少傾向）

- ・自治会・町内会の参加経験（半数の市民が自治会・町内会の地域活動に参加経験あり。約 3 割が経験無し）
- ・自主防災組織率は 100%（全国平均 67%）
- ・充実した子育て環境（保育所持機児童数は政令市で 3 番目に低く、就学前児童数に対する保育所設置割合は政令市で最も高い）
- ・少ない都市公園面積（政令市では 3 番目に少ない）
- ・家族像の変化（単身化の進展）
- ・きめ細かい少人数教育（小学校・中学校児童数ともに、1 学級あたりの人数は政令市で 1 番少ない）

- ・学校と家庭・地域の連携が良好（学校評価システムの結果公表は、全校で実施<都道府県・政令指定都市中 1 位>, 学校運営協議会の設置校数は、18 年度末で 60 校園<全国最多・全国では 195 校>）
- ・ボランティア活動者数の微減（行動者率は H18 ; 22.6%, H13 ; 24.1%）